

Ⅱ

福島県の学校防災の 新たな展開



馬の背岬(大熊町)

1 発達の段階に応じた学校防災

(1) 学校における防災教育のねらい

防災教育は、様々な危険から児童生徒等の安全を確保するために行われる安全教育の一部をなすものである。したがって、防災教育のねらいは、「『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）にしたがって、以下のようにまとめられる。

- ①自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。（**知識、思考・判断**）
- ②地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。（**危険予測、主体的な行動**）
- ③自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。（**社会貢献、支援者の基盤**）

東日本大震災では、学校管理下において、教職員の適切な誘導や日常の避難訓練等の成果によって、児童生徒等が迅速に避難できた学校があった一方、避難の判断が遅れ、多数の犠牲者が出た学校や、下校途中や在宅中に被害に遭った児童生徒等がいた。自然災害では、想定した被害を越える災害が起る可能性が常にあり、自ら危険を予測し回避するために、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動ができる力を身に付けることが必要である。そのためには、日常生活においても状況を判断し、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を身に付けさせることが極めて重要である。

また、自然災害の多い我が国においては、災害後の生活、復旧、復興を支える支援者となる視点も必要である。このためにも、上記③のねらいが重要となる。

学校において、防災教育として必要な知識や能力等を児童生徒等に身に付けさせるためには、その発達の段階に応じた系統的な指導が必要となる。

本資料においては、小学校と中学校の発達の段階に合わせた防災教育の年間指導計画例や教科等における展開例を示した。次に示す校種別の防災教育の重点は、前述した①～③のねらいに迫るため、各校種ごとの‘つながり’や‘学習の発展性’を考慮し、児童生徒の発達段階に応じ身に付けさせたい知識や能力の基本となる考え方の例示である。

(2) 校種別の防災教育の重点

発達の段階ごとに、必要な知識を身に付け、主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成するため、具体的な指導内容に関して、次の方向が考えられる。

障がいのある児童生徒等について

障がいの状態、発達の段階、特性及び地域の実態等に応じて、危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。

知識、思考・判断

危険予測、主体的な行動

社会貢献、支援者の基盤

幼稚園段階における防災教育の重点

安全に生活し、緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて素早く行動できる幼児の育成

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">教師の話や指示を注意して聞き理解する。日常の園生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。きまりの大切さが分かる。 | <ul style="list-style-type: none">安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動する。危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせる。 | <ul style="list-style-type: none">高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをする。友達と協力して活動に取り組む。 |
|---|--|---|

小学校段階における防災教育の重点

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童の育成

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。被害を軽減し、災害後に役立つものについて理解する。 | <ul style="list-style-type: none">災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる。 | <ul style="list-style-type: none">自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。 |
|---|---|---|

中学校段階における防災教育の重点

日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒の育成

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">災害発生のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解するとともに、備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 | <ul style="list-style-type: none">日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。被害の軽減、災害後の生活を考え備えることができる。災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができる。 | <ul style="list-style-type: none">地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加する。 |
|--|--|---|

高等学校段階における防災教育の重点

安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒の育成

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">世界や日本の主な災害の歴史や原因を理解するとともに、災害時に必要な物資や支援について考え、日常生活や災害時に適切な行動をとるための判断に生かすことができる。 | <ul style="list-style-type: none">日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し、回避するとともに災害時には地域や社会全体の安全について考え行動することができる。 | <ul style="list-style-type: none">事前の備えや災害時の支援について考え、積極的に地域防災や災害時の支援活動に取り組む。 |
|--|--|--|

(3) 指導計画の基本的な考え方

防災教育の教育課程への位置付けを明らかにし、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における教育内容の重点の置き方や相互の関連を工夫したり、児童生徒等の発達の段階を考慮したりすることが重要である。その際、「生活安全」「交通安全」の内容とともに学校安全計画の内容に含め、相互の関連性を踏まえ作成することも大切である。

防災教育に関する指導計画は、防災教育を学校教育活動全体を通じて組織的、計画的に推進するための基本計画である。したがって、防災教育のねらい、各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動、学校行事などの指導内容、指導の時期、配当時間数、安全管理との関連、地域の関係機関との連携などの概要について明確にした上、項目ごとに整理するなど全教職員の共通理解を図って作成することが求められる。

(4) 指導計画作成に当たっての配慮事項

配慮事項については、「『生きる力』を育む防災教育の展開」(文科省、2013)に記載されているが、端的に示すと以下ようになる。なお⑫、⑬は本県独自に追加したものである。

- ① 学校や地域の実態に応じて必要な指導内容等を検討し、家庭、地域社会との連携を図る。
- ② 各教科等の学習を相互に関連付けるなどして、教育活動全体を通じて適切に行えるようにする。
- ③ 系統的・計画的な指導を行うことが大切であるが、年度途中で新たな課題が出現した場合、必要に応じて弾力性をもたせることが必要である。(「朝の会」や「帰りの会」の活用など)
- ④ 避難訓練の計画については、学校の立地条件や校舎の構造等に十分考慮し、火災、地震、津波など多様な災害を想定する。自然災害の種類やその発生メカニズム、種類や災害の規模によって起こる危険や避難の方法に変化を持たせるなど、工夫することが重要である。
- ⑤ 防災教育の授業を実施するに当たっては、各種資料の活用、コンピュータや情報ネットワークを活用するなど指導方法の多様化にも努める。
- ⑥ 勤労の尊さや社会に奉仕する精神を培えるよう、日ごろから地域社会と連携したボランティア活動に関する学習の場を設定できるよう検討する。
- ⑦ 障がいのある児童生徒について、個々の障がいの状況等に応じた指導内容や指導方法を工夫する。
- ⑧ 地域の関係機関、自主防災組織などとの情報交換及び協議を行い、実践的な防災教育の実施について検討する。
- ⑨ 児童生徒を地域行事に参加させるよう促すなど、日ごろから「開かれた学校づくり」に努める。
- ⑩ 教職員の防災に関する意識を啓発し、指導力の向上を図るため、防災教育・防災管理に関する教職員の研修を計画し、実施する。
- ⑪ 防災教育の評価を多面的に行うため、教職員の評価に加え、児童生徒の自己評価も実施する。また、外部評価の導入も積極的に検討する。
- ⑫ 文部科学省が、平成26年1月に、自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実について、中学校社会の地理的分野や高等学校地理歴史の地理A、地理Bの学習指導要領解説の一部改訂を行った趣旨を踏まえる。
- ⑬ 福島県教育委員会の策定した「学校教育指導の重点」や、「第6次福島県総合教育計画(改訂版)」等も配慮する。

<参考資料>

平成 26 年度「学校教育指導の重点」（福島県教育委員会）より

防災教育（小・中）

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を育成する。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
1 児童生徒が主体的に行動する態度を身に付けるための計画の充実を図る。	(1) 各教科等との調整を図り、防災教育に関する事項を学校安全計画や各種指導計画に確実に位置付け、学校の全体計画を作成するなど、防災教育に取り組む体制を整備する。 (2) 児童生徒の発達の段階や地域の実情に応じて、特に重点的に指導すべき災害の内容を示して計画を作成する。 (3) 関係機関や団体等と連携を図り、学校安全計画や危険等発生時対処要領の改善に努める。
2 児童生徒が状況に応じ、主体的に考え判断し行動する態度や能力を高めるための指導の充実を図る。	(1) 「防災教育指導資料（平成 25 年度）」等を活用し、理科、社会科、保健体育科等の教科、総合的な学習の時間や特別活動において、災害発生のメカニズム、地域の自然環境や過去の災害等について学び、災害に関する基本的な知識と防災に関する意識を高めるための学習活動を工夫する。 (2) 関係機関や各種団体等と連携した避難訓練を実施したり、防災マップを作成したりして、より実効的な防災教育の推進に努める。 (3) 保護者や地域等と連携し、登下校中や自宅など学校以外で災害に遭った場合の避難の仕方、家族との待ち合わせ場所や連絡方法等、多様な場面を想定した指導や学習の場を設定する。
3 安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める指導を工夫する。	(1) 自らの安全確保だけでなく地域社会の安全にも視野を広げることができるよう、ボランティア活動や地域の人々との幅広い交流など、社会貢献や社会参加に関する活動の場を工夫する。

II

「第 6 次福島県総合教育計画」（改訂版）より

“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標 1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

施策 3 子どもたちの生きる力を支える「確かな学力」を身に付けさせます

【東日本大震災・原子力災害を経て】（一部抜粋）

学校において、放射線の性質や放射線からの防護等の方法など基本的な知識の普及を図るとともに、災害時に適切に判断して行動できるような生き抜く力の育成を図ります。

さらに、本県の子どもたちが将来、最先端の医学やエネルギー研究などを担えるよう理数教育などを推進します。

【今後の取組】

◇ 防災教育の推進

自分たちを取り巻く身近な自然環境、災害や防災についての正しい知識を身に付けさせるとともに、災害発生時における危険を理解し、自ら考え判断し、行動する力を育成するなど、防災教育の充実を図ります。

2 防災教育の展開（年間指導計画例）

■防災学習年間指導計画例（小学校低学年）

	1 学期	2 学期	3 学期
学 校 行 事 等	○避難訓練（授業中）	○防災教室（煙体験等） ○児童引渡し訓練	○避難訓練（休み時間）
道 徳	○生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。 ○幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○働くことのよさを感じて、みんなのために働く。		
学 級 活 動	○日常生活や学習への適応及び健康安全 ○災害時の正しい行動の仕方 「地震が起こったら？」（P.58）		○休み時間の避難の仕方
児 童 会 活 動	○異年齢集団による交流 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国 語	○大事なことを落とさず聞く ・先生が話す災害時に気を付けることを集中して聞く。	○「私の発見」の作成 ・地域探検で気付いたことを「はっけんカード」に書く。 ・「はっけんカード」を使って文章を書く。	・地域のよさや、防災に関して学んだことを家族に発表する。
生 活	○学校探検（1） ・地震が発生したときに学校内のいろいろな場所で、どうしたらよいのかを考える。 ○安全な登下校（1） ・通学路の危険な場所を知り、安全な登下校のために気を付けることを理解する。 ○季節となかよし（1） ・学校の近くの危険な場所を知り、安全に活動するために気を付けることを理解する。 ○地域探検（2） ・自分たちの身を守る物等を探したり、マップ作成を行ったりする。（P.62） ・地域で安全を守っている人について調べる。 ・地域に伝わる災害に関する言い伝えを聞く。		
図 画 工 作		○造形遊び ・地域探検で集めた自然物を使った造形活動を行う。	
体 育	○集団行動 ・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。		
放 射 線 教 育	○放射線等に関する知識を得る ・放射線、放射性物質の存在を知る。 ・放射線と放射能、放射性物質の違いを知る。 ・身の回りや自然界の放射線を知る。 ○放射線等から身を守る ・放射性物質が一度に大量に放出された場合の避難の仕方を知る。 ・外部被ばくや内部被ばくをしないための生活の仕方を知る。 ・放射線の人体に対する影響について知る。		

※ 教科等の特性により、指導すべき時期等を示した方が良いと思われる内容については、学期の区切りを入れて記載した。また、特に順序性を問わない場合は、学期の区切りを入れずに示している。

※ 理科、社会科等の教科で指導学年が明確な場合や、生活科のように指導する学年が想定される場合には、(1) のように（ ）内に数字で学年を記した。

【P.57 の中学校第3学年まで同様である】

■防災学習年間指導計画例（小学校中学年）

	1学期	2学期	3学期
学校行事等	○避難訓練（授業中）	○防災教室（煙体験等） ○児童引渡し訓練等	○避難訓練（休み時間）
道徳	○生命の尊さを感じ取り生命あるものを大切にする。 ○相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。		
学級活動	○日常生活や学習への適応及び健康安全 ○屋外への避難の仕方	○安全な集団行動	○休み時間の避難の仕方 「落雷から身を守ろう」
児童会活動	○異年齢集団による交流 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国語	○よい聞き手になる ・災害を体験した地域の人のお話をメモの取り方を工夫して聞く。	○研究レポートの作成 ・消防士や警察、市職員など防災に携わる人たちの仕事を調べレポートを書く。	○新聞にまとめた発表 ・災害の危険について、調べたことを新聞にまとめ報告する。
算数	○整理のしかた ・けがの種類と場所について、表を用いて見やすくまとめる。 ○長さをはかろう ・避難場所までの距離について、単位の変換を学ぶ。 ○ぼうグラフと表 ・災害による負傷者のけがの種類を棒グラフで表し、棒グラフのよさを理解する。		
理科	○身近な自然の観察(3) ・身近な自然とその周辺の環境との関係についての考えをもつ。 ○季節と生物(4) ・身近な動物との活動や植物の成長と環境とのかかわりについての考えをもつ。		
社会	○地域社会における災害及び事故の防止 ・関係機関の災害への対応や事故防止への努力について学習する。 ○地域の人々の生活 ・昔から今へと続く町づくりについて学習する。 ・地域の発展に尽くした先人の働きや苦心について学習する。 ○県の様子 ・特色ある地域の人々の生活について学習する。		
図画工作		○造形遊び ・自然物を使った造形活動を行う。	
体育	○集団行動 ・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。		
総合的な学習の時間	大好きなわが町→よく遊ぶ場所を友達等に紹介しよう→安全に楽しく遊べる場所を探そう→私たちを見守ってくれている人達を調べよう→防災マップを作ろう→作ったマップを学校の友達等に紹介しよう。 「地域の防災マップを作ろう」(P.66)		
放射線教育	低学年の内容に追加される内容 ○放射線等に関する知識を得る ・放射線の透過性について知る。		

■防災学習年間指導計画例 (小学校高学年)

	1 学期	2 学期	3 学期
学校行事等	○避難訓練 (授業中) ○宿泊訓練 (防災関連設備等の学習) ○修学旅行 (防災関連施設等の見学)	○防災教室 (消火体験等) ○児童引渡し訓練	○避難訓練 (休み時間)
道徳	○生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 ○だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 ○働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。		
学級活動	○日常生活や学習への適応及び健康安全 ○火災防止	○地域の避難場所 「いざという時の備えは？」 (P.68)	○休み時間の避難の仕方 「突然の大雨にあったら？」
児童会活動	○異年齢集団による交流 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国語	○新聞記事の読み比べ ・震災について書かれた新聞を読み比べ意見の違いを読み取る	○資料を活用した意見文の作成 ・震災に関する統計資料を活用し、意見文を書く。	○意見文の発表 ・震災に関する意見文を、聞く人の心に届くように発表する。
算数	○単位量あたりの大きさ ・体育館の面積と避難した人の数から、1人当たりの広さを求める。 ○百分率 ・地震で被害を受けた学校数を調べ、全体数から割合を求める。 ○量の単位のしくみ ・屋根の上の雪の重さを、1000cmの雪の重さをもとに、求める。		
理科	○天気の変化 (5) ・天気の変化の仕方についての自分の考えをもつ。 ○燃焼の仕組み (6) ・ものが燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解する。	○天気の変化 (台風) (5) ・台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係についての考えをもつ ○流水のはたらき (5) ・川の増水により土地の様子が大きく変化する場面があることを理解する。 ○土地のつくりと変化 (6)	○電気の利用 (6) ・身の回りには電気の性質を利用した道具があることを理解する。
社会	○我が国の国土の自然などの様子 (5) ・地形や気候の概要、特色ある地域の人々の生活について学習する。 ・自然災害の防止について学習する。 ○我が国の情報産業や情報化した社会の様子 (5) ・地震や土砂災害を即時に知らせる取組を取り上げて学習する。 ○我が国の政治の働き (6) ・地方公共団体や国による災害復旧の取組の事例を取り上げて学習する。 ○世界の中の日本の役割 (6) ・国際協力の事例として災害時の救援活動を取り上げて学習する。		
図画工作	・学校や地域の身近な場所に働きかける造形活動をする。	・地域の中で気に入った風景を描く。	
体育	○集団行動 ・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。 ○心の健康 ・災害時に感じるストレスや症状を和らげるための方法について知る。	○けがの防止と手当 ・災害時に起こるけがの可能性について考える。(P.72) ・災害時のけがを防ぐための方法について考える。 ○着衣水泳	○私たちの健康を守る地域の活動 ・モニタリングポストや県民健康調査、放射線の食に関する調査等について知る。
家庭	○家庭生活と家族 (A) ・災害時には家族の一員として自分ができていることを考える。 ・災害時には、近隣の人と助け合い生きること、そのためにも、家族の一員として近隣の人と関わることを知る。 ○日常の食事と調理の基礎 (B) ・災害が発生した場合は、避難場所で「炊き出し」として食事を作ることが必要になることを知る。		
総合的な学習の時間	ボランティア活動 (私たちにできること) → H 2 3. 3. 1 1 東日本大震災について調べよう → 原子力災害について調べよう → 節電などエコについて自分たちのできることを考えよう → 東日本大震災のボランティアに参加した人たちの体験談から学ぼう → 自分たちの学校が避難所になったとき自分たちにできることを考えよう。		
放射線教育	中学年の内容に追加される内容 ○放射線等に関する知識を得る ・放射線の単位、測り方を知る。 ・放射線の種類、性質を知る。 ・放射線の利用について知る。 ・除染の意味を知る。 ○放射線等から身を守る ・情報の収集の仕方を知る。 ・外部被ばくと内部被ばくの影響について知る。 ・食物と放射線量の関係を知る。		

■防災学習年間指導計画例（中学校1学年）

	1学期	2学期	3学期
学校行事等	○避難訓練（授業中） ○学習旅行（防災関連施設等の見学）	○防災教室（煙体験等） ○生徒引渡し訓練	○避難訓練（休み時間）
道徳	○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。 ○勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。		
学級活動	○適応と成長及び健康安全 「火災から身を守ろう」	○落雷の危険や風水害	○災害への備えと協力（地域の一員として）
生徒会活動	○異年齢集団による交流 ○文化祭 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国語	○流れを踏まえての話し合い ・災害復旧の解決策をテーマにバズセッションを行う。	○調べたことの報告 ・自然災害や防災をテーマに調査しレポートにまとめて発表する。	○学習の成果の発表 ・総合的な学習の時間などで調べた防災に関する内容をまとめ発表する。
数学	○文字と式 ・空气中を伝わる音の速さを求める式から雷発生までの距離を求める。		○資料の活用 ・台風の特徴や傾向を資料から読み取る。
理科	○火山と地震 ・火山活動や地震に伴う土地の変化の様子を理解する。 ○地層の重なりと過去の変化 ・地層とその中の化石を手がかりとして過去の環境について推定する。		
社会	○世界各地の人々の生活と環境 ・地球環境問題、世界各地の自然災害などテーマを決めた探究学習を行う。 ○世界と比べた日本の地域的特色（自然環境） ・プレートテクトニクス、自然災害と防災への取組について学習する。 ○身近な地域の歴史 ・身近な地域の災害の歴史についての調査学習を行う。		
美術	○鑑賞 ・地域の美術館での鑑賞活動を通して、地域の良さを見つめる。		
保健体育	○欲求やストレスへの対処と心の健康 ・災害時及びその後に感じるストレスやその対処法について知る。 ○集団行動 ・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。		
技術・家庭（技術分野）（1年～3年）	○材料と加工に関する技術（技A） ・建物に利用されている技術の、安全性の向上等を含めた社会に果たしている役割を知り、長所や短所を考える。 ○情報に関する技術（技D） ・情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み及び災害時の情報の収集や発信の方法を知る。		
総合的な学習の時間	自然の美しさや自然の恵みについて考えよう→学校周辺のフィールドワークに出かけよう（公共施設、地形、神社・寺等）→自然の豊かさや危険性について考えよう→調べたことをレポートにまとめよう→文化祭などで発表しよう。		
放射線教育	小学校高学年の内容に追加される内容 ○放射線等から身を守る ・心のケアの仕方を知る。		

■防災学習年間指導計画例（中学校2学年）

	1学期	2学期	3学期
学校行事等	○避難訓練（授業中） ○学習旅行（防災関連施設等の見学）	○防災教室（二次避難等） ○生徒引渡し訓練 ○職場体験（防災関連設備等の学習）	○避難訓練（休み時間）
道徳	○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。 ○勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。		
学級活動	○適応と成長及び健康安全「地震になったらどうする？」	○「災害発生状況に応じたイメージトレーニングをしよう」	○「ボランティア活動などの社会参加」(P.80)
生徒会活動	○異年齢集団による交流 ○文化祭 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国語	○印象に残る説明 ・資料や機器を活用して、災害に関して印象に残る発表を行う。	○考えを深める話し合い ・防災をテーマにパネルディスカッションをし、考えを深める。	○学習の成果の発表 ・日本の災害について新聞記事からテーマを決めて、根拠となる事実を示しながら意見文を書く。
数学			○確率 ・公表されている地震発生確率について、根拠を過去の地震発生の記録をもとに調べる。
理科	○気象観測・気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気の関係を見いだす。 ○天気の変化・前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けてとらえる。 ○日本の気象・天気図や気象衛星画像などから日本の天気の特徴を気団と関連付けてとらえる。		
社会	○世界と比べた日本の地域的特色（資源） ・日本の電力の問題、資源活用と環境への配慮について学習する。 ○日本の諸地域 ・九州の火山、阪神・淡路大震災、東日本大震災について学習する。		
美術	○絵に表現する ・身近な風景を深く見つめ、感じ取ったことを表現する。		
保健体育	○集団行動 ・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。	○自然災害による傷害の防止 ・自然災害による傷害の発生原因や二次災害の危険性について知る。 ・災害発生時に傷害を防止する方法について考える。 ○着衣水泳	○応急手当 ・応急手当の方法や心肺蘇生法について知り、実習を通して活用できるようにする。
技術・家庭（家庭分野）（1年～3年）	○食生活と自立（家B） ・災害時でも生命維持のために、限られた食材・調理道具を工夫し、安全な食を摂取する方法を考える。 ○衣生活・住生活と自立（家C） ・家庭における減災・防災方法を考えたり、防災グッズを製作したりする。（P.78）		
総合的な学習の時間	災害時の対応を考えよう→節電・節水などエコに取組もう→避難経路図の作成や避難場所の確認など自分たちのできることを考えよう→学習の成果を文化祭などで発表しよう		
放射線教育	1学年の内容に追加される内容 ○放射線等に関する知識を得る ・放射能の半減期と放射線量の関係を知る。		

■防災学習年間指導計画例（中学校3学年）

	1学期	2学期	3学期
学校行事等	○避難訓練（授業中） ○修学旅行（防災関連施設等の見学）	○防災教室（消火体験等） ○生徒引渡し訓練	○避難訓練（休み時間）
道徳	○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。 ○勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。(P.75)		
学級活動	○適応と成長及び健康安全 「修学旅行先での火災から身を守る」	○「我が家の危険を自己診断しよう」 ○「我が家の防災マニュアルを作成しよう」	○「地域に貢献できるボランティア活動をしよう」
生徒会活動	○異年齢集団による交流 ○文化祭 ○災害安全に関する自主的活動への参加		
国語	○論理の展開を工夫した意見文の作成 ・自然環境について書かれた二つの社説を読み比べ、論理の展開を工夫して意見文を書く。	○課題解決に向けての話合い ・地球環境を保護することをテーマに話し合い、「環境宣言」の形でまとめ、社会に発信する。	○3年間の歩みの編集 ・防災や環境保護に関する学習の成果をポートフォリオの形で編集し、自らの歩みを振り返る。
数学		○相似な図形 ・建物と防潮堤の写真を用い、建物の高さが□mのときの防潮堤の高さを求める。	○三平方の定理 ・避難場所までの地図上の直線距離は○mで、□mの標高差があるとき、実際の避難距離を求める。
理科	○エネルギー ・わたしたちは、水力、火力、原子力などからエネルギーを得ていることを知る。 ○生物と環境 ・自然環境の重要性を認識する。 ○自然の恵みと災害 ・自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、自然と人間のかかわりについて考察する。(P.82) ○自然環境の保全と科学技術の利用 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考慮し、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識する。		
社会	○第一次世界大戦後の国際情勢と我が国の動き ・関東大震災の被害について学習する。 ○私たちと政治 ・政治参加について防災の視点から学習する。 ○よりよい社会を目指して ・「循環型社会」の形成などについてのテーマ学習を行う。		
美術	○デザインして表す ○絵に表現する。 ・身近な風景を深く見つめ、感じ取ったことを表現する。 ○鑑賞 ・美術作品に取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取る。		
保健体育	○集団行動・集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付ける。	○感染症の予防 ・感染症の発生要因について知り、避難所等での集団生活を送る上で感染症を予防するための方策について考える。 ○着衣水泳	○保健・医療機関や医薬品の有効利用 ・保健所、保健センター医療機関の機能の有効利用について知る。 ・医薬品の正しい使用方法について知る。
技術・家庭（1年～3年）	1・2学年の内容に同じ		
総合的な学習の時間	災害時の対応を考えよう→節電・節水などエコに取組もう→避難経路図の作成や避難場所の確認など自分たちのできることを考えよう→学習の成果を文化祭などで発表しよう		
放射線教育	2学年の内容に同じ		

3 防災教育の展開（指導案）

小学校低学年

学級活動：「地震が起きたら？」

1 ねらい

- 地震による危険やその場に応じた安全な避難の基本的な行動を理解する。

2 指導計画（1時間）

- (1) 地震の危険性や避難時の基本的な行動を理解する。

(1 時間)

3 展開

学習活動	◇主な発問	指導上の留意点 【資料】
1 地震発生時、どんな危険があるか話し合う。 実際に経験したことや、テレビ、新聞等を通して知った地震の災害について発表する。		○ 地震が起きたときのことを思い出させ、興味・関心を高める。 ○ 学校での避難訓練なども想起させたい。
2 家の中で、周りに大人の人がいないうちに地震が発生したら、どう行動するかを話し合う。	一人でいるときに地震が起きたら、どうすればいいかな。	○ 地震の恐ろしさを確認した上で、近くに大人の人がいないうちに地震が発生することを想定し、自分ならどう行動するかを考えさせる。
(1) 家に一人だけにいるときに地震が起きたらどう行動するかを考える。 ・「紙芝居1」の提示 ◇紙芝居の中の「○○さん」なら、どう行動するか。 ①隣同士で話し合う。 ②全体で話し合い、共有する。		○ 【資料：紙芝居1】を提示し、自分が一人で留守番をしている状況を想像させる。 （「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「飛び出さない」を意識させられる絵を準備する。） 例：机、椅子（座布団）、タンス、TV、窓ガラス等 ○机の下に隠れる。 ○ランドセルで頭を守る。 ○タンスが倒れるかもしれないので遠ざかる。 ○TVや本が落ちてきそうなので離れる。 ○窓ガラスが割れたら、歩けない。
(2) 命を守るためにどう行動すればよいかを確認する。 ・「紙芝居2」の提示		○ 【資料：紙芝居2】を提示し、タンスやTVが倒れているが、机の下に身を隠し、座布団で頭を覆い命を守った様子を確認する。
3 地震発生時、命を守るために気を付けなければならないことを確認する。		○ 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「飛び出さない」を合い言葉として、命を守ることを確認する。
4 学校で、周りに先生がいないうちに地震が発生したら、どう行動するかを話し合う。 (1) 休み時間や、清掃中など先生が近くにいないときにどう行動するかを考える。 ・「紙芝居3」の提示 ◇学校で周りに先生がいないうちに地震が起きたら、どう行動すればいいかな。 (2) 全体で話し合い、避難の際に気をつけなければならないことを確認する。		○ 【資料：紙芝居3】を提示し、校内で一人である場面を想像させる。 ○ 放送や先生の指示をよく聞く。 （校内放送が使えないことを想定する必要もある。） ○ 避難に必要なものを確認する。（ハンカチ、帽子等） ○ 身を隠せるものがないときにどう対応するかを考える。 ○ 校内の危険箇所を確認する ○ 避難経路、避難場所を確認する。 ○ 避難場所に集まったら、静かにする。 （校庭の液状化や亀裂、台風などの悪天候のため、校庭に避難できない場合も想定したい。）
5 地震が起きたときに、特に自分がこれから気を付けることをワークシートにまとめる。 ・4つの「合い言葉」の確認をする。		○ 自分の命を守るために、先生方の指示に従うことの大切さを理解させるとともに、自分で危険を察知し、判断し、考え、行動しなければならない場合があることを認識させたい。 ○ 終末に東日本大震災の写真、映像などを提示することも考えられる。（PTSD等に配慮する。）

4 評価

- 地震の恐ろしさを知り、自分の命を守るために、どのような行動をとったらよいか決めることができたか。

5 その他

- ・準備物 「紙芝居1～3」 ・東日本大震災の写真等

じしん お 地震が起きたときにすること

ねん 年 くみ 組 ばん 番 なまえ 名前

じしん お
地震が起きたらどうすればいいかな。



いえ ひとり
○家に一人でいるとき

.....

.....

.....

がっこう せんせい
○学校でまわりに先生がいないうとき

.....

.....

.....

あ ことば
合い言葉は

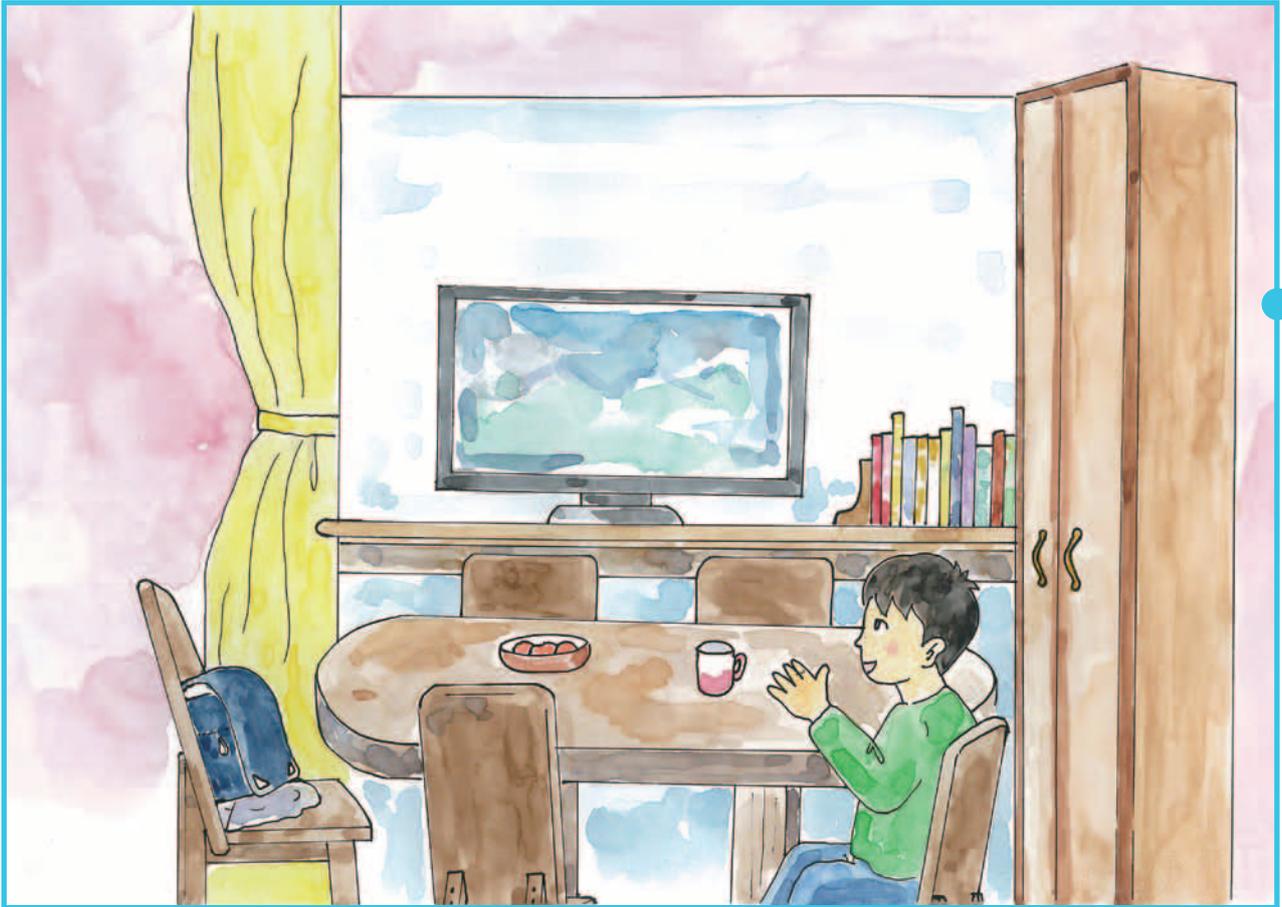


1

2

3

4



【紙芝居1】



【紙芝居2】

例：机、椅子（座布団）、タンス、TV、
窓ガラス等

- 机の下に隠れる。
- ランドセルで頭を守る。
- タンスが倒れるかもしれないので遠ざかる。
- TVや本が落ちてきそうなので離れる。
- 窓ガラスが割れたら、歩けない。

「落ちてこない」「倒れてこない」
「移動してこない」「飛び出してこない」
を合い言葉として、命を守ることを確認する。

- 放送や先生の指示をよく聞く。
(校内放送が使えないことを想定する必要もある。)
- 避難に必要なものを確認する。
(ハンカチ、帽子等)
- 身を隠せるものがないときにどう対応するかを考える。
- 校内の危険箇所を確認する
- 避難経路、避難場所を確認する。
- 避難場所に集まったら、静かにする。
(校庭の液状化や亀裂、台風などの悪天候のため、校庭に避難できない場合も想定したい。)



【紙芝居3】

1 ねらい

- 自分たちの住む町の公共施設を訪ねたり、調べたりすることで、住んでいる町に関心を持ち、様々な場所や人とかかわっていることに気付くことができる。
- 学校や自分たちの町を知り、いざという時に自分で判断し、行動できる力を身に付けることができる。
- 町で見つけたことや学んだことを適切に表現して伝えることができる。
- 地域の人とかかわりながら「安全」や「安心」を探し、学習したことを生かし、安全に生活することができる。

2 指導計画 (11 時間 展開例 2～11 / 11)

- | | |
|--------------------------|--------|
| (1) 自分の町について話し合う | (1 時間) |
| (2) 町探検の計画をたてる | (3 時間) |
| (3) 町探検に行く | (4 時間) |
| (4) 町で見つけたことや学んだことを発表し合う | (3 時間) |

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
(2 / 11 時間) 1 防災についての話を聞く。 2 防災に関する表示や標識の写真を見て、何を伝えているのか考え、話し合う。 ◇モニタリングポストって何だろう。どこにあるのかな。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災の時の話などをして、イメージをわかせる。 ○ 地域や児童の実態に応じ、児童に精神的な負担をかけることのないように配慮する。 ○ 防災に関する身近な表示や標識の写真等を見せ、さらに話し合いをさせることで関心や安全意識を高めさせる。 ○ モニタリングポストの意味を伝え、身近な場所にあることに気付かせる。
(3～4 / 11 時間) 3 安全に気を付けながら活動するための約束事を話し合わせる。 ◇けがや事故に気を付けるために大切なことは何だろう。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 約束や緊急時の対応、帰校時刻などの確認、保護者やボランティアの人の協力を得るなど安全面に十分配慮する。
(5～8 / 11 時間) 4 防災に関する表示や標識、安全な場所を探したり町の人に聞いたりする。 ◇ここで地震が起きたらどうしたらいいかな。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災に関する表示や標識の写真を探すだけでなく、もし地震等が起きたときの安全な場所についても探すように助言する。 ○ 地域の人にインタビューをしたりすることを奨励し、積極的に学習することができるよう支援する。【発見カード】
(9～10 / 11 時間) 5 見つけた表示や標識、安全な場所を地図に記入し、発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の防災に関する表示や標識の写真や絵や地域のフロアマップ等を活用し、児童がお互いに話し合いながら地図の作成や発表ができるように助言する。
(11 / 11 時間) 6 友達の発表を聞いて分かったことや今後気を付けることについてワークシートにまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「安全」や「安心」について気が付いたことを書かせる。

4 評価

- 地域には、安全を守るための表示や標識、施設、設備があることに気付くことができたか。
- 様々な表示等は、町の人々の安全な生活に役立っていることに気付くことができたか。

5 その他

- (1) 本単元のねらいは、地域の人や場所に関心を持ち、探検を通じていろいろな人や施設と適切にかかわり、それらが自分たちの生活と深くかかわっていることに気づき、もっとかかわりを広げようとするをねらいとしている。その中に、防災学習に関する活動も盛り込み、地域の安全を守るための防災に関する表示や標識、設備等について理解し、安全を考えて行動することができるように指導する。
- (2) 指導に当たっては、安全面の確保のために保護者や地域のボランティアの方の協力を得る。また、打合せに関しては、活動のねらいを伝えるとともに児童や地域の実態に応じて、約束や緊急時の対応、帰校時刻などの確認を行い、安全面に十分配慮する。
- (3) 参考資料

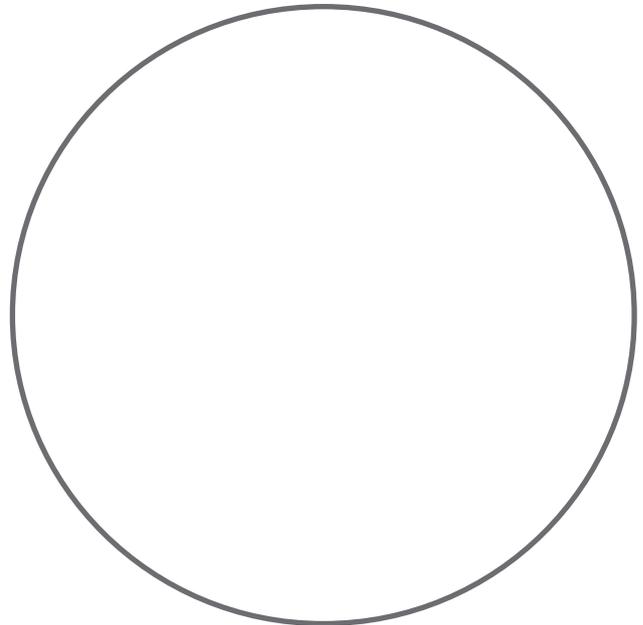
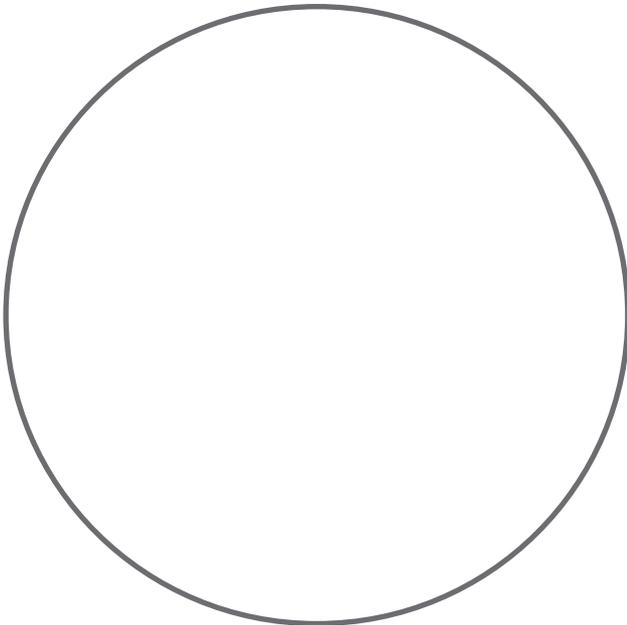
・学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省 (H25. 3)

ぼくたち・わたしたちの ^{あんぜん}安全をまもるもの

見つけたよ

ねん 年 くみ 組 ばん 番 なまえ 名前

^{あんぜん}安全をまもるものを見つけたら、^み名前や^え絵をかいてみよう。



^わ分かったこと

.....

.....

.....

.....

1 ねらい

- 災害や事故に備え、自治会等地域の人々と市役所や消防署、警察署、病院、水道局、電力会社、ガス会社等が協力して取り組んでいることを調べ、身近な地域の防災の活動に関心をもち、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えられるようにする。

2 指導計画(23時間 19～23/23)

- (1) 火事からくらしを守る(消防署の働き) (9時間)
- (2) 事件や事故からくらしを守る(警察署の働き) (9時間)
- (3) 自然災害からくらしを守る地域の協力活動(地域の防災活動) (5時間)

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1	東日本大震災の状況や災害発生時の様子についてまとめる。 ◇東日本大震災のときの様子をまとめよう。 ・地震が起きたときどのように行動したか ・地震で困ったこと(電気 水道 ガス 食事等) ・地域の人々との協力(近所の人、町内会の人等)	○ 東日本大震災の状況が分かる写真、被害状況の資料、地図、新聞記事等の資料を提示する。 ○ 災害発生時の様子について家の人に聞くことにより、緊急時の行動について考えることができるようにする。
2	東日本大震災では、どんな人たちが働いてくれたか知ることができる。 ◇東日本大震災が発生したとき、どんな人たちが働いてくれたか考えよう。 ・全国や世界からのボランティア ・消防署や警察署の人たち、自衛隊の人たち ・町内会の人たち ◇消防署や警察署、市役所の人に話を聞こう。 ・災害発生時の活動の様子や協力体制 ・災害時の苦労や努力	○ 全国から駆け付けた人たちが福島県のために活動してくれたことが分かるように、写真や新聞記事を提示する。 ○ 見学学習時の消防署員や警察署員の話や写真、被害状況の資料、地図、新聞記事等の資料から、災害時の活動について具体的に知ることができるようにする。
3	東日本大震災の他に地域でこれまで発生した地震や洪水など自然災害の状況や概要を知る。 ◇地域に住むお年寄りに話を聞こう。 ・地域の自然災害の歴史 ・地域に伝わる自然災害にかかわる言い伝え ・災害に備えて、気を付けなければならないこと ◇2次災害の発生について考えよう。 ・火災、倒壊、津波	○ 地域に住む方等から話を聞くことで、地域に伝わる言い伝えや過去に起きた自然災害について知ることができるようにする。 ○ 2次災害の発生について、写真、地域の資料、地図、ハザードマップ等の資料をもとに考えることができる。
4	自分たちのまちでは、どのように災害に備えているか調べる。 ◇地域の防災計画や防災にかかわる取組や工夫、施設について調べよう。 ・災害にかかわる施設がある場所 ・災害に備えた協力体制や関係機関との連携 ・自治会や自主防災組織による防災訓練 ・地域の防災倉庫の管理や整備 ・防災や日常の備えに関する呼びかけ	○ 災害にかかわる施設がある場所を地図で確認できるようにする。 ○ 防災訓練の写真や避難場所の案内表示、(モニタリングポスト)の写真、防災倉庫等の写真を提示し、身近な防災のための取組について理解できるようにする。 ○ 地域の防災活動に関心がもてるように、より身近な写真、地域の資料、地図、防災計画、ハザードマップ等の資料を提示するようにする。
5	自然災害について分かったことや考えたことをもとに、自分ができることや気を付けなければならないことを話し合う。 ◇災害が発生したとき、どんなことに気を付けるかを考えよう。 ・自然災害の種類よっての注意点(地震→津波 地震→建物倒壊 大雪→落雪) ・災害発生時の家族のルール作り(集合場所、連絡方法等) ◇東日本大震災からの復興に取り組む人々の工夫や努力について考えよう。 ・新しい防波堤の建設、住居の建設、避難場所の設定等	○ 安全なまちづくりについて、自分たちの考えを新聞やポスターなどにまとめ、まちの人たちに提案することを通して、地域の一員としての自覚をもって行動しようとする態度を養う。 ○ 東日本大震災から復興しようがんばっている人やまちの様子を写真や新聞記事等から考え、復興に取り組む人々の工夫や努力について考えることができるようにする。 【ワークシート】

4 評価

- (1) 東日本大震災のような自然災害発生時の消防署や警察署、市町村の対応や地域の人々の活動や取組について理解することができたか。
- (2) 地域の防災活動について関心をもち、自分たちができる取組を考えることができたか。
- (3) 身近な地域での災害に備えた取組について理解することができたか。

5 その他

- (1) 東日本大震災の写真の提示には、児童に精神的な負担をかけることのないように配慮する。
- (2) 東日本大震災を振り返る場合には、児童の実態に配慮する。

安全なまちづくり新聞をつくろう

年 組 番 名前

「安全なまちづくり」について分かったことや考えたことをもとに、自分にできることや気を付けなければならないことを次の言葉などを使って新聞にまとめてみよう。

じしん 地震	つなみ 津波	こうずい 洪水	かさい 火災	ひなん 避難	きんきゆうじしんそくほう 緊急地震速報	じょうほう 情報	くんれん 訓練	きょうりよく 協力
-----------	-----------	------------	-----------	-----------	------------------------	-------------	------------	--------------

防災新聞の例



わたしのまちの東日本大震災

わたしたちの町では、東日本大震災のために、水道が長い間使えませんでした。また、食品を買うために、スーパーマーケットには長い行列ができていました。飲料水や食料品などは全くなかった。町内会の人たちも協力して、生活を助けてくれました。こまごまに協力し合う大切さを学びました。

東日本大震災のときに一番こまごまのことをお母さんに聞くと、食べるものがなかったり、水道が使えなかったりしたことが多かった。私も多く不安だっただけで、ふだんから災害にそなえていることが大切だと思いました。

地震のときに気をつけること

①家や学校にいるときに地震が起こったら、つくえの下や机の下などに身をよせて様子を見ること。

②先生や警察署や消防署の指示にしたがって行動すること。

③ストーブ等、火を使用している場合は、すばやく消すこと。

④あわてて外へ飛び出さないこと。

⑤避難する場合は、がけやへいなど危険な場所の横を通らないこと。

⑥海岸の近くで地震が起こったら、津波の危険性があるため、高い場所へ急いで逃げる。

⑦火事が発生したときは、ゆれがおさまったら、近くの人と協力して火の手が小さいうちに消火をすること。(おとなの人)

災害にそなえてできること

○災害がおきたときの家族のルール

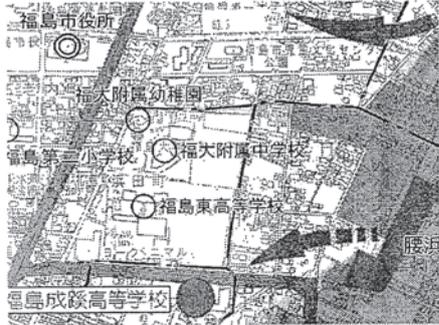
○わたしの家では、災害がおきたときは、近くの場所へ避難します。また、家族の連らく先が分かるようにしています。

○災害がおきたときのために準備しておくもの

○災害のときにすぐに持ち出せるように、飲料水や非常食、ラジオ、かい中電灯などを「非常袋」に入れて準備をします。

○避難場所や防災地図をかくにんする。

【自分の町の避難場所】



「消防署の佐藤さんの話」

○消防署のおきたときに気をつけること

ぼうさい
防災新聞

安全な暮らしとくしゅう

- インタビューをしたことや調べたことをもとにつくってみましょう。
- 分かったことをもとに、自分ができることをグループで話し合ってみましょう。
- 学習をまとめた新聞や防災ポスターや標語等を地域に掲示し、まちの人たちに伝えてみましょう。

1 ねらい

- 地域の防災マップ作りを通して、自分の住むまち（地域）の災害による危険性を知り、被害を軽減しようとする意識を高める。
- 自分の住むまち（地域）の避難場所を確認し、災害時、自ら考え判断し、行動できるようにする。

2 指導計画（15時間 展開例7～11 / 15）

- (1) H23.3.11の東日本大震災を振り返る。 (2時間)
 - ・当時の様子や状況、自分のとった行動、震災にあって考えたことなど
- (2) 自分の住むまち（地域）を歩く。 (4時間)
 - ・地域の物的・人的資源を知る。
- (3) 地域の防災マップを作る。 (5時間)
- (4) 防災マップ作りや活動を通して考えたことを話し合う。 (2時間)
- (5) 授業参観や学習発表会等で発表する。 (2時間)

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 自分たちが住むまち（地域）で起こる災害について考える。 ◇登校時に起きる災害にはどんなものがありますか。 ・地震、津波、台風、大雨、洪水、土砂崩れ、地滑り、地割れ、校庭などの隆起、落雷、竜巻、突風、噴火、大雪など ◇登校時にこのような災害が発生した場合、どうすればいいですか。 ・学校などの避難場所に避難すればいいと思うが避難場所はどこですか。 ・近づかない方がよいと思うところはどこですか。 ・家、学校、その他の場所に自分が一人の時はどうしますか。		○ 「災害発生時は平日の午前10時」「季節は冬」「天気は雪」など、日時や天候、季節等の条件を設定して提示する。 【「eカレッジ」総務省消防庁ホームページ http://open.fdma.go.jp/e-college/ 【「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省（H22.3）
2 地域の防災マップ作りを通して、自分たちの住むまち（地域）の危険性について考える。 ◇災害に備えて、自分の通学路を中心とした、防災マップを作ろう。 (1) 自分の住むまち（地域）の地図を用意する。 (2) 自分の家と学校に印を付ける。 (3) 目安となる大きな建物等に印を付ける。 (4) 避難場所（110番の家や津波110番の家を含む）に印を付ける。 (5) 避難経路（道）に色を付ける。		○ 地震の時にどうするか、どこに避難するかを話し合えるように授業参観等を利用し、保護者等と一緒に学習できるようにする。 【地震災害に特に注意が必要な地域では、一次避難場所や二次避難場所、避難経路等をあらかじめ地図上で把握する。】 【国土交通省気象庁ホームページ http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/shindokai.html 【津波や洪水、土砂崩れ、地滑りの発生が予想される地域では、過去の被害区域や避難場所、避難建物、避難経路をあらかじめ地図上で把握する。】 【気象庁作成津波防災啓発DVD「津波からにげる」 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html
3 保護者の協力を得て、自分の住んでいる地域（方部）に出かけ、防災マップを作成する。 ◇各方部ごとに分かれて、防災マップを作成する。 (1) 危険箇所を地図に記入する。【落ちてくる、倒れてくる、移動してくる、飛んでき、津波や洪水、土砂崩れ、地滑りの際、危険な場所や避難に適している場所、大雨の際の側溝の状況（蓋の有無や水かさなど）や河川の氾濫が起きやすい場所など】を確認して地図に記入する。 (2) 地震及び津波などの避難場所の建物や周辺を確認する。（写真撮影をする。） (3) 過去の地震被害地域や津波被害地域、洪水の被害地域などを確認する。 (4) 保護者などの点検・確認の結果を受けて避難経路や避難場所などを見直し、防災マップを作成する。		○ 災害に関する危険箇所、危険回避の方法などを防災マップに盛り込むようにする。 ○ 生活科で行った「町たんけん」などを生かすようにする。 【災害から命を守るために】 文部科学省（H20.3）
4 各方部ごとに集まって話し合い、地域の防災マップを完成する。		○ 撮影した避難場所や周辺の写真を方部ごとの地図に貼ったり、過去の地震被害が大きかった地域や浸水地域などに色を塗ったりする。 ○ 危険箇所を付箋紙に書いて、方部の地図に貼る。

4 評価

- 防災マップ作りを通して、自分の住むまち（地域）の災害の危険性について気付き、考えることができたか。

5 その他

- (1) 危険箇所は、他人の家に関わる物は対象外とすることを事前に知らせておく。
- (2) 決められた避難場所を確認するだけでなく、自分で危険だと思う場所、安全だと思う場所を考えたり、確認したりする。

地いきのぼうさいマップをつくろう

地いき名	はん長	記ろく係	メンバー

1 登校する時に起こる災害には、どんなものがありますか。

2 登校する時にこのような災害が起こった場合、どうすればよいですか。

3 災害に備えて、自分の通学路を中心とした防災マップをつくろう。

- ① 自分の住むまち（地いき）の地図を用意する。
- ② 自分の家と学校に印をつける。
- ③ 目安となる大きな建物などに印をつける。
- ④ 避難場所（110番の家や津波110番の家などを含む）に印をつける。
- ⑤ 避難経路（道）に色をつける。

4 各地ごとに分かれて、防災マップを完成しよう。

- ① 危険な場所を地図に記入する。
【物が落ちてくる、たおれてくる、移動してくる、飛んできてくる、津波や洪水、土砂崩れ、地すべりの時、危険な場所や避難できる場所、大雨の時の側溝のようす（ふたのあるなしや水かさなど）や河川の氾濫が起きやすい場所など】をたしかめて地図に記入する。
- ② 地震及び津波などの避難場所の建物やまわりをたしかめる。（写真をとる）
- ③ 今までの地震や津波で被害にあった地いき、洪水の被害地いきなどをたしかめる。
- ④ おうちの方の点検結果を受けて避難経路や避難場所などを見直し、防災マップをつくる。

5 各地いきごとに集まって話し合い、地いきの防災マップを完成する。

- 話し合いをスムーズに進め、防災マップを完成しよう。

6 学習のまとめ（学習で分かったことをまとめましょう）

1 ねらい

- 災害の際の非常持ち出し品などについてまとめ、避難経路などを記入した「防災マップ」を作成するとともに、いざという時に備えようとする意識をもつことができるようにする。

2 指導計画（1時間 展開例）

- (1) 事前の指導
 - ・「防災家族会議」を開き、非常時の持ち出し品や自宅付近の危険箇所などについて話し合いを行い、ワークシートに記入する。
 - ・自宅付近の地図を作成する。
- (2) 本時の指導
- (3) 事後の指導
 - ・ワークシート「防災家族会議」「防災マップ」をもとに、家族で大地震に対する備えと心構えなどを再度確認し、周知徹底する。

3 展 開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 大地震などの資料を見て、事前に準備しておかなければならないものがあることを知る。 ◇大地震が起きた場合、どのような準備や心構えが必要か考えよう	いざという時のために、どんな準備や心構えが必要か考えよう	○ 地震や自然災害の資料（映像や写真など）を準備し、児童に提示する。 【大地震の映像や写真】
2 計画に基づいて各家庭で「防災家族会議」を開き、危険箇所や避難場所など話し合ったことを発表する。 ◇皆さんの家では、大地震が起きたときのために、どのような備えをしていますか。 ・自分の家の備えについて「防災家族会議」のワークシートにまとめたものを発表する。 ・非常時の持ち出し品で足りないものを記入する。		○ 事前に各家庭に学習内容を周知し、協力依頼の文書を配付しておく。 ○ 事前に、非常時の持ち出し品や危険箇所や避難場所などを調べておくよう助言しておく。 ○ 家族で話し合ったことをもとに、発表させる。 【ワークシート：防災家族会議】
3 避難する際、どのような行動をとればよいか、グループごとに確かめ合う。 ・危険な場所はどこか？ ・避難場所はどこか？ ・避難場所へ行くまでの道は安全か？ ・避難する際に気を付けることは？ など		○ 避難する際の友だちの行動は安全かどうか、確かめ合わせる。 ○ 友だちの意見で参考になることをワークシートに記入する。 ○ 避難場所があいまいな児童には、避難場所と道順をきちんと記入させる。 【ワークシート：防災家族会議】
4 自分の家に適した「防災マップ」を作成する。 ◇友だちの意見を参考にして「防災マップ」を完成させよう。 ・防災マップに危険箇所などを追加し、避難場所までの経路を記入した防災マップを作成する。		○ 事前に作成した自宅付近の地図に、友だちの意見を参考にして、「防災マップ」を作ることができるようにする。 【ワークシート：防災マップ】
5 いざという時の心構えをまとめ、発表する。 ◇いざという時、私のできることをやしなければならないことをワークシートにまとめよう。 ・いざという時の心構えを考え、発表する。		○ 自分の家でできること、しなければならないことを具体的に考えさせる。 【ワークシート：防災家族会議】 ○ 作成した「防災家族会議」「防災マップ」をもとに、いざという時の避難経路や心構えなどを、帰宅してから家族で再確認する時間をもつようにさせる。

4 評 価

- 災害の際の非常持ち出し品をまとめることができ、避難経路などを記入した防災マップを作成できたか。
- いざという時のための心構えができたか。

5 その他

- (1) 児童の実態を把握し、地震に対してストレスを感じる児童がいるときは、資料の内容などを十分に考慮する。
- (2) 地震の規模によっては、電話が使えない場合がある。落ち着いて、まずは、自分の身の安全を確保することが大切であることを理解させる。
- (3) 参考資料
 - ・防災教育教材「災害から命を守るために」文部科学省（H20.3）
 - ・「地震を知ろう」文部科学省（H20.12）
 - ・小・中学校版防災教育補助教材「3. 1 1 を忘れない」東京都教育委員会（H24.1）
 - ・防災学習テキスト「自然災害から命を守ろう！」川崎市教育委員会（H24.12）

いざという時の備えは

年 組 番 名前

ぼうさいかぞくかいぎ 「防災家族会議」をひらこう

自然災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、いざという時のために、^{そな}備えておくことが大切です。家族で「防災家族会議」を開き、どのように災害に備えるか話し合しましょう。

「防災家族会議」

- ^{ひじょうじ}非常時の持ち出し品 ^{ひん}家の近くで、^{きけん}危険な場所の^{かくにん}確認
- ^{ひなんばしょ}避難場所の確認 ^{ひなんけいろ}避難場所までの避難経路
- いざというとき、私のできることを、しなければならないこと



家族で話し合った内容

^{ひじょうじ}【非常時の持ち出し品リスト】

.....

.....

【自宅付近の地図をもとに考えよう】

- 家の近くで危険な場所
- ^{ひなんばしょ}避難場所
- ^{ひなんけいろ}避難場所までの避難経路
- その他話し合ったこと

.....



※^{さんこういけん}友達の参考意見

.....

◎私のできることを、しなくてはならないこと

.....



「防災マップ」を作成しよう

年 組 番 名 前

大地震が発生すると、建物が倒れ火災が起こることが予想されます。家の周りの危険な場所や避難場所を調べて防災マップをつくり、災害に備えましょう。

作り方のポイント

- 1 自分の家をわかるように書く。
- 2 目印になる学校や建物や大きな道路を書く。
- 3 避難場所に印をつける。
- 4 危険な場所には、何が危険か具体的に書き込む。

防災マップをもとに、家族ともう一度災害に対する備えについて、話し合しましょう。

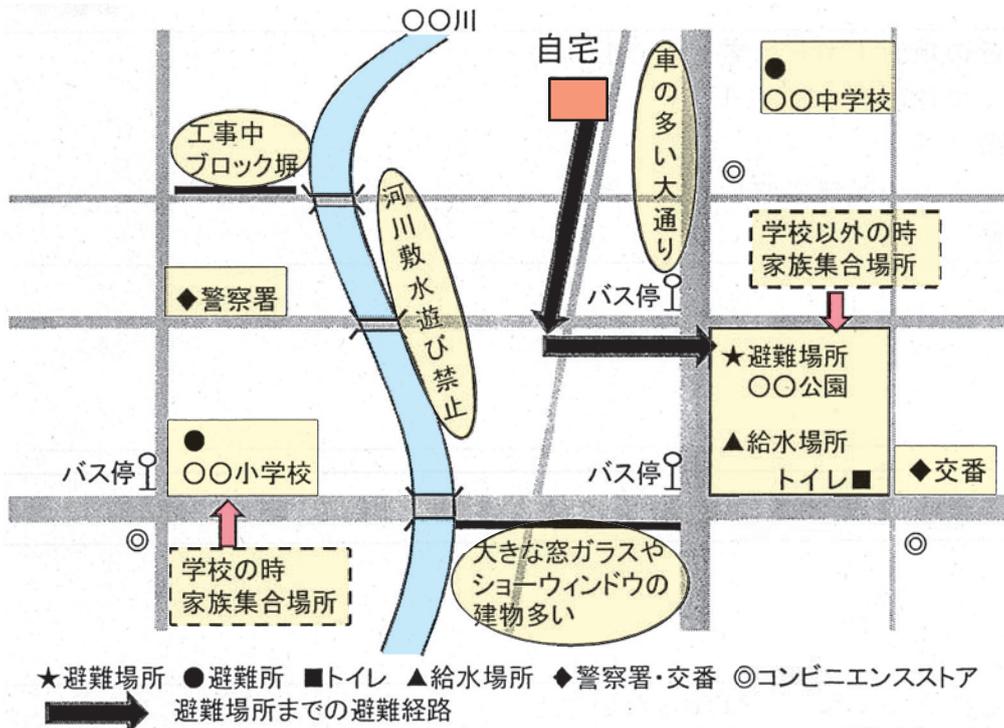
※家の周りの危険な場所をチェック

- ・大きな看板や電柱
- ・ブロック塀などがあるところ
- ・車の多い通り
- ・大きなガラス窓
- ・工事中的場所
- ・海や川の近く
- ・土砂崩れの危険性がある場所
- ・川や池、がけのある場所



我が家の「防災マップ」

(参考例)



※ 例を参考に作成して防災マップを作り、上にはってみよう。



さいがいようでんごん

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を知ろう

年 組 番 名前

大地震だいじしんが起きて電話でんわがつながりにくいときは、家族かぞえを無事ぶじに伝えたり、避難場所ひなんばしょを連絡れんらくするために、「171(イナイ)災害用伝言ダイヤル」を使うことができます。

伝言の録音方法	災害用伝言ダイヤルのかけかた 1 「1」「7」「1」を押す。 2 説明を聞く。 3 録音する時は「1」をおす。 話を聞く(再生する)ときは「2」をおす。 4 自分の家の電話番号を市外局番からおす。 ※電話から聞こえる説明にしがうこと
1 7 1 をおす ▼ 録音の場合 1 ▼ 電話番号 (〇〇〇) 〇〇〇 - 〇〇〇〇	
伝言の録音方法	
1 7 1 をおす ▼ 再生の場合 2 ▼ 電話番号 (〇〇〇) 〇〇〇 - 〇〇〇〇	

被災地内ひさいちの人ひとも、被災地外しがいきょくばんの人ひとも被災地しがいの人ひとの電話番号でんわばんごうを市外局番しがいきょくばんからダイヤルけいたいします。一般加入電話いっぱんかにゆうでんわ(ダイヤル式・プッシュ式)、公衆電話こうしゅうでんわ、携帯電話けいたいでんわ、PHSPHS(共に一部事業者じぎょうしゃを除くのぞ)から利用りようできます。

災害用伝言ダイヤルは、1回30秒まで録音できます。ところが、10回より多く録音すると、一番前の録音から消えていきます。録音ろくおんするときは、先にどんなことを言うか、考えてから使つかいましょう。

災害用伝言ダイヤルを練習できる日があります！

- 毎月1日と15日 (00:00 ~ 24:00)
- 1月1日~1月3日 (00:00 ~ 24:00)
- 防災とボランティア週間 (1月15日 9:00 ~ 1月21日 17:00)
- 防災週間 (8月30日 9:00 ~ 9月5日 17:00)

〈練習してみよう〉 30秒以内でどんなことを言うか、考えてみましょう。

【例えば】 ○○です。元気です。お兄さんはまだ帰ってきてません。これから、となりの家のおばあさんと一緒に、△△小学校の体育館に避難します。

【ここに書いてみましょう】

II 福島県の学校防災の新たな展開

1 ねらい

- 身の回りで起こる事故やけがを防ぐには、「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解する。
- 事故やけがを防ぐために必要な、的確な判断力を身に付ける。

2 指導計画(4時間 展開例2/4)

- (1) 身の回りで起こる事故やけがは、「人の行動」と「周囲の環境」が原因となっていることを理解する。
- (2) 学校や家庭、地域などの身の回りで起こる事故やけがを防ぐには、「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解する。
- (3) 交通事故や犯罪被害を防ぐには、「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解する。
- (4) けがの悪化を防ぐためにできるだけ早く処置したり、近くの大人に知らせたりすることが大切であることを理解する。簡単なけがの手当の方法を理解し、手当ができるようにする。

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 提示した絵を見てどんな危険があるかを予測するとともに事故やけがを防ぐ安全な行動の仕方を考え、ワークシートに記入する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">廊下に水がこぼれている状況</div> ◇この絵はどんな場面ですか。また、どんな危険がありますか。 ◇危険を避けるにはどうしたらよいですか。	○ 児童の発言を分類し、事故やけがを防ぐには、「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることをおさえる。 ○ 様々な児童の意見を取り上げ、安全な行動は、1つだけではないことを理解させる。 <div style="text-align: right;">【ワークシート】</div>
2 学習課題を知る。	「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことに気を付けて、事故やけがを防ぐにはどうしたらよいか考えよう。	
3 「階段」の写真をもとに、かくれた危険を予測し、安全を整えるための工夫を見つける。	◇この図には、どのような危険がかくれていますか。また、どのような事故やけがが予想されますか。 ◇事故やけがを防ぐためにどのような工夫がされていますか。 ・滑り落ちる _____ ・ぶつかる _____ ◇危険を避けるにはどうしたらよいですか。 ・走らない _____ ・前を見て歩く _____	○ 提示した写真の場所では、「どのような事故が起こりそうか」「事故が起きないようにどのような工夫がされているか」「けがを防ぐにはどのような行動をすべきか」といった視点で話し合うようにする。 → 階段の滑り止めテープ → 通行区分を示す線 ○ 環境が整っていても行動によって危険が伴うことに気付かせる。
4 災害が起きた時に備えて学校や家庭、地域では、事故やけがなどの被害を防ぐためにどのような工夫や備えをしているかを話し合う。	◇写真を見て、危険から身を守るためにどのような工夫をしているか話し合ってみましょう。 (1) 学校 ・校舎の耐震補強 _____ ・モニタリングポスト _____ (2) 家庭 ・突っ張り棒 _____ ・非常持ち出し袋 _____ (3) 地域 ・立ち入り禁止の看板 _____ ・避難所の案内 _____ ◇その他の工夫や備えで、気が付いたものを出し合ひましょう。	○ 学校内及び地域の防災に対する工夫や備えの写真を各2～3種類程度提示する。 ○ 危険が潜んでいる場所には何かしらのサインがあることを知らせ、そのサインに気付いて危険な目にあわないよう行動することを助言する。 ○ 家庭や地域では、危険を予測し、様々な工夫や備えをしていることに気付くことができるよう資料を精選する。 → 地震で校舎がつぶれないように → 原子力災害での放射線空間線量の急な上昇に気付くように → 地震で家具が倒れてこないように → 緊急の時にすぐ逃げられるように → がけからの落石事故にあわないように → 災害時に身を守るために集合する、または帰宅困難者が交通機関が回復するまで待機するために
5 学習をふりかえる。	◇今日学習したことを、学習カードにまとめましょう。 ◇けがや事故を防ぐには、これからどのように生活しようと思えますか。	○ 事故やけがを防ぐためには「危険な場所に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」に気を付けて行動しているかについて学習カードに記述している内容から確かめる。

4 評価

- それぞれの場面について、危険の予測をし、自分が正しいと思う「安全な行動のしかた」を考えたり、「環境を整えるための工夫や備え」に気付いたりすることができたか。
- 身の回りで起こる事故やけがを防ぐには、「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことが大切であることを理解できたか。

けがの防止と手当

— 学校や家庭、地域におけるけがの防止 —

年 組 番 名前

めあて

「危険に気付く」「正しい判断をして安全に行動する」「環境を安全に整える」ことに気を付けて、事故やけがを防ぐにはどうしたらよいか考えよう。

点線のわくの中に自分の考えなどを書きましょう。



①この絵には、どのような危険がかくれていますか？

.....

②危険を避けるにはどうしたらよいでしょうか？

.....



③この写真には、どのような危険がかくれていますか？また、どのような事故やけがが予想されますか？

(危険)

(けが)

.....

⑤どのような工夫がされていますか？

.....

④危険を避けるためにはどうしたらよいですか？

.....

⑥それぞれの写真には、危険から身を守るためにどのような工夫がされていますか？



Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the first image.

Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the second image.

Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the third image.



Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the fourth image.

Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the fifth image.

Blank dotted-line box for writing an answer to question 6, corresponding to the sixth image.

⑦この他に、身の回りで工夫されていることはありませんか？

Blank dotted-line box for writing an answer to question 7.

⑧今日学習した中で、事故やけがを防ぐために大切にすることを3つ書きましょう。

Blank dotted-line box for writing three important things to prevent accidents or injuries, with three circles provided for bullet points.

⑨あなたは、事故やけがを防ぐには、これからどのように生活しようと思いますか？

Blank dotted-line box for writing how you plan to live to prevent accidents or injuries, with three circles provided for bullet points.

1 ねらい

- 身の回りの人々への配慮と思いやりの心を持ち、進んでよりよい社会をつくっていかうとする態度を養う。集団や社会とのかかわりに関すること 4- (2) 【公德心及び社会連帯】

2 資料

「塩むすび」（ふくしま道徳教育資料集 第I集 生きぬく・いのち）

3 主題設定の理由

災害時は、自他の命を大切にするとともに、地域社会の一員として社会連帯の自覚をもって、積極的に人々の役に立とうとする態度が大切である。このため、互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに、他者に対する深い思いやりをもって、相手の立場を尊重しようとする心情を育てる必要がある。「塩むすび」は、東日本大震災による避難生活の中で、主人公である中学生が避難している方々のために朝早くから炊き出しをするという体験をもとにした読み物資料である。主人公の行動や気持ちの変化に寄り添いながら、自分と集団とのかかわりについて考えさせることで、誰もが人と人との支え合いによって成り立っている社会の一員であることを理解させたい。そのうえで、自己の生活を振り返らせ、普段から身の回りの人々への配慮と思いやりの心を持ち、進んで社会とかわっていく態度を養いたい。

4 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 過去の日本の災害で避難所となったところでは、どんなことに困ったのかを話し合う。 ◇避難所では、どんなことに困っただろう。		○ 東日本大震災における避難所の写真を見せ、当時の状況を想起させ、様々な困難があったことに気付かせる。（動画があれば、それを視聴させる。） ※ 被災生徒の心情に配慮する。
2 資料「塩むすび」を読み、話し合う。 ◇避難所で、母に食事係を勧められたとき、「学校がはじまるんだよ。忙しいんだからね。」と当たったのは、どんな気持ちからだろう。 ◇みんなのアイデアで、温かい塩むすびとおみそ汁をつくることになったとき、私はどんな心境だったろう。 ◇「ありがとう。おいしかったよ。」と言われたとき、私はなぜ照れくさくてしかたなかったのだろう。 ◇おばさんたちのがんばりを見て「自分も何かしなくては」という気持ちになった私の姿から学んだことは何ですか。		【ふくしま道徳教育資料集 第I集 生きぬく・いのち】 ○ 頭ではわかっているでも行為に移すのは難しいことに気付かせる。 ○ 力を合わせてよりよく生活していこうとするみんなのアイデアに対して、素直に賛同できない私の葛藤を理解させる。 ○ 戸惑いながらはじめたことなのに人々に感謝され、うれしく思っている私の心情の変化に気付かせることで、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気付かせていく。 ○ 一人一人の生徒に「自分も社会の一員である」ということに気付かせる。
3 東日本大震災の時に、地域社会の一員として自分はどうのようことをやったか、今後、このような災害時の時に、自分たちに何ができるか、考えを交流させる。		○ 自分自身を振り返らせうえて、グループで考えや思いを交流させ、身の回りの人々と助け合い励まし合って、よりよい社会をつくっていかうという思いをもたせていく。
4 教師の説話を聞く。		○ 震災の時に多くの人が行ったボランティアの様子を知り、その思いについて考えさせる。

5 評価

- よりよい社会の実現には、身の回りの人々への配慮や思いやりの心が必要だということについて考えを深めることができたか。
（災害時こそ、自他の命を大切に考えるとともに、地域社会の一員として公德心をもって地域の人々と積極的にかかわることが大切であることに気付けたか。）

6 他の教育活動などとの関連

- (1) 生徒会活動、ボランティア活動などにおいて価値の自覚と実践化を図る。
- (2) 価値への関心や意識が継続するように、学級通信を活用する。

やっと今の仕事に慣れてきた私は、心の中で賛成しかねていた。けれども、避難所にいる人々の先の健康を考えると他に思いつくアイデアはなかった。

結局、この提案にみんなが賛成し、朝の集合時間を早めて、炊きたてのご飯でおにぎりとみそ汁を作ることになった。眠い目をこすりながら調理場に行くと、すでにみんなそろっている。ご飯も炊き上がっていた。



塩むすびを当番みんなで、「熱い、熱い。」と言いながら握る。おばさんたちの手はもう真っ赤だ。私も、おそろおそろ握ってみる。形は悪いが、とにかく握った。七十人が二個ずつ食べるには百四十個も握らなければならない。私の手も真っ赤になった。驚いたことに、おにぎりにしたら毎朝たくさんの子どもが自分から取りにきたのだ。塩むすびは子どもだけでなく、大人にも人気があり、二個、三個とお代わりをする人も増えてきた。

「ありがたい。おいしかったよ。」と言われた私は、照れくさくてしかたがなかった。

ご飯は、いつもおばさんたちが交代で炊いてくれる。塩加減も抜群だ。どうしたらあんなに早く握れるのだろう。私が一個握るうちに三個は握っている。しかも、目に見えないところでもおばさんたちの気配りはすごい。

塩むすびを配るときにいつも明るく、「いってらっしゃい。」と声をかける先崎さん。片付けの手際がいい高橋さんは、最後の人が食器を片付けるまで待っていて、汚れた床を雑巾でいつも丁寧に拭く。夜に布巾を干しているのも知らなかった。大和田さんは、食材を組み合わせて、得意のわさび漬を振る舞ってくれる。おばさんたちの頑張りを見たら自分も何かしなくてはという気になってくる。

自分の知らなかった世界で、初めて考えさせられたことがある。温かい塩むすびと食事係を勧めた母に感謝だ。新しい学校への不安と期待はあるが、食事係で新しい世界を知った私のように、やってみなければ分からないことだってあるはずだ。

私は温かい塩むすびを一口頬張った。口の中に広がるお米の甘みと優しい塩加減が絶妙だ。何よりその温かさが体中にしみ渡る。そして温かい塩むすびに感謝したのは私だけではなかったようだ。あの日以来、朝の残菜はほとんど無くなったのだから。



塩むすび にぎり続けた 手が赤い
被災地で 心にしみる 塩むすび

平成二十三年度「十七字のふれあい事業」応募作品より

〔教材作成委員会〕作成

塩むすび

三月十一日の東日本大震災から二か月、避難先を二度移動した祖母と母、私の三人は、K市にあるY小学校の体育館での生活が続いていた。布団が敷き詰められた居住スペースは、相変わらず窮屈だが、ここでの生活にも少しずつ慣れてきたところだった。

この避難所は人の入れ替わりが激しい。新たにできた仮設住宅へ移る人やアパートへ転居する人、県外へ避難する人など

様々である。はじめは百二十人程いた人々も今では七十人程度である。昼間は仕事を探して留守にしている場合が多いが、夕方になると戻ってくる。

避難生活が始まった当初は、支援団体による生活の支援があったが、徐々に自分たちで仕事の分担をするようになった。朝のゴミ捨て、掃除、支援物資の運搬、積み込み、入浴施設の清掃等。それらの中でなんととっても大変なのは、一日三回の食事の準備だ。食事係の募集が呼びかけられてもなかなか決まらない。ようやく食事係が決まっても人の入れ替わりが激しかったり、都合で食事係ができない場合があったりで、食事の時間は混乱する場面が多かった。

転校先の中学校が決まり、学校に通い始める少し前のことだった。



二回目の募集の際に、母に促されて私も食事係を担当することになった。これまででは、できたものを取りに行くだけで、片付けだけでも面倒くさいと思っていた。それなのに自分が作る方の立場になったのだ。実際、調理場は慌ただしい。栄養士さんが献立と分量を決める。それに合わせて食材を切ったり、味付けをしていく。いざその一員になると知らない人ばかりだし、どう動いていいかわからない。私は思わず母に、「学校が始まるんだよ。忙しいんだからね。」と当たっていた。

食事係になって二日目。調理場では、最近残菜が目立ってきたことが話題になっていた。疲労がたまって体力も落ち、一日動かずに過ごす人にとつては、お腹も空かないらしい。毎日の食事の量は、目に見えて減っていた。当然、作り置きしている冷たいご飯は、そういう状況では食欲をそそるものではなかった。

「ずいぶんせきをしている人が増えたみたい。このままではみんなの健康が心配だわ。」

「なんとかみんなに喜んでもらえる食事を提供する方法はないものかしら。」

「ああ。早く避難所を出て、自分の家であつたかいご飯とおみそ汁が食べたいな。」

「そうね。ここでは、温かい食べ物は何よりもごちそうよ。」

「明日の朝は、私たちで温かいご飯とおみそ汁を出しましょうよ。」

「おにぎりなんてどうかしら。朝早いから塩むすび。」

（えっ、もつと早起きして集まるの。しかも塩むすびだなんて。具ものりもないおにぎりなんておいしいのかな。）

1 ねらい

- これからの家庭生活について、製作を通して学んだことを振り返ることで、自分や家族の生活をよりよくしようとする意欲をもつことができる。

2 指導計画（10時間 展開例 10 / 10）

- (1) 布を用いた防災グッズを考えよう (1時間)
- (2) 防災グッズ製作の計画を立てよう (2時間)
 - ①自分がつくりたい防災グッズについてのプレゼンテーション
 - ②インターネットを用いての調べ学習
 - ③製作計画づくり
- (3) 防災グッズを製作しよう (5時間)
- (4) 防災グッズをグレードアップさせよう (1時間)
 - ①グレードアップのための話し合い
 - ②改良・補修製作
- (5) 福島発！ 防災グッズを紹介しよう (1時間) 本時

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 本時の学習課題を把握する。	防災グッズ製作を振り返ろう	○ 本時の発表に使用するワークシート（自分の作品を分かりやすく紹介するために、家庭でまとめてくる）を確認させる。
2 製作品の紹介をする。	(1) 製作品の紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・水上まくら <li style="width: 50%;">・防災ずきん <li style="width: 50%;">・防災ずきんまくら <li style="width: 50%;">・防災リュック <li style="width: 50%;">・防災ずきんバック (2) 自分の作品の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・材料 <li style="width: 50%;">・作り方 <li style="width: 50%;">・使い方 <li style="width: 50%;">・工夫した点 (3) 感想の伝え合い	○ ジグソー学習の課題班毎に、製作した防災グッズの特徴について、パフォーマンスを交えたプレゼンテーションをさせる。進行は生徒が行うなど、楽しい雰囲気で作品紹介ができるようにする。 ○ 説明内容を明確にし、3～4人のジグソー班で、順番に製作品の説明をさせる。 ○ 友達製の作品のよさに気付かせたり、互いに称賛したりすることで、製作品を家庭で活用しようとする実践意欲を高める。
3 製作活動を振り返る。	(1) 製作活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・課題設定 <li style="width: 33%;">・計画 <li style="width: 33%;">・製作 <li style="width: 33%;">・改良 <li style="width: 33%;">・発表 (2) 製作を通して学んだことの発表 (3) 自分や家族のより安心な生活を目指して、自分が生活で実践していきたいことをワークシートに記入	○ 製作活動をパワーポイントで振り返らせ、完成の喜びを味わわせる。 ○ 考えを記入させたカードを黒板に貼り、意見を共有させ、個々の思考の深化を図る。 ○ 家庭を想起させ、自分や家族がより安心できる生活を目指し、これからの生活で自分が実践していきたいことをワークシートに記入させる。
4 本時のまとめをする。	(1) 自己評価 (2) 次時の学習の確認	○ これからも自分や家庭・地域の生活のために、主体的に課題解決に取り組み、生活をよりよくしようとする意見を取りあげる。

4 評価

- 生活をよりよくすることを目指して、自分が生活で実践していきたいことをワークシートにまとめることができたか。

5 その他

平成 24 年度福島県中学校教育研究協議会県北大会 技術・家庭科（家庭分野）

防災グッズを紹介しよう

1 作品紹介	作 品 名	
	使 う 人	
	製 作 の 意 図	
	作 り 方 材 料 費	
	工 夫 し た と こ ろ	
2 友だちの発表 を聞いた感想		
3 自分が生活の 中で実践して いきたいこと		
4 自 己 評 価	生活をよりよくすることを目指して、自分が生活で実践して いきたいことをワークシートにまとめることができたか。	A B C

1 ねらい

- 災害への備えの重要性について理解させ、日ごろから進んで災害に対して備えようとする態度を養う。
- 学校や地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さについて理解を深めさせ、進んで参加しようとする実践的な態度を養う。

2 指導計画（1時間）

(1) 事前の指導

- ・ 災害に備え、自分の家庭で行っていることについて調べ、学級活動カードに記入する。

(2) 本時の指導

- ・ 災害後の暮らしについて、映像をもとに話し合うことで、備える習慣の必要性を感じさせるとともに、自らの生活だけでなく、中学生として、ボランティアなど地域に貢献することの大切さを感じさせ、実践的な態度を養う。

(3) 事後の指導

- ・ (一定期間後) 各自が決めた「災害時の備え」の整備状況について報告し合う。

3 展開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等	【資料】
1 災害をイメージさせる写真を提示し、災害が起こった時の暮らしについて、どのような状況が起こり得るか話し合う。 ◇災害時の暮らしはどうなるだろうか。 ・電気、ガス、水道などが使えなくなる。 ・道路や鉄道が寸断され、移動が制限される。	災害後の暮らしをよりよくするために、中学生として家庭や地域でどのようなことができるか考えよう。	○ 身近で起こった災害により、ライフラインが使えなくなったり、避難所での生活を余儀なくされたりする場面を写真やVTRを使って理解させ、切実感をもたせる。	【福島県中学校防災教材：写真・VTR】
2 災害前、災害後の暮らしについて考える。 ◇家庭や地域における災害前、災害後の暮らしはどのように変化するだろうか。 <家庭> ・懐中電灯やろうそく、ラジオや電池の準備 ・飲料水や簡易トイレの準備 ・家族間での連絡先、集合場所の確認 ・災害用伝言ダイヤル 171 の活用 など <地域> ・避難所でのルールを厳守 ・避難所で災害時要援護者のサポート ・小さな子どもやお年寄りの支援 など		○ ワークシートに、地域と家庭、発災前と発災後に分けさせ、暮らしについてイメージさせ、グループで話し合わせる。 ○ 家族や自分を守るだけでなく、自分たちが助ける側にもなれることに気付かせる。	【ワークシート】 【ワークシート】
3 災害時に中学生がボランティアの人たちと協力して活動した事例を紹介する。(VTR) ◇実際の災害時に、自分の身を守るもののほか、災害後も含めて、中学生として何ができるだろうか。 ・中学生としてできることを話し合う。 ・災害前にできるボランティア ・災害時にできるボランティア ・災害後にできるボランティア		○ 実際に中学生が行ったボランティアの事例を紹介することで、話し合いで出なかった活動などに視野を広げさせる。 ○ 中学生としてできるボランティアについて、グループで話し合わせる。	【福島県中学校防災教材：VTR】 【ワークシート】
4 本時の活動を通して学んだことを踏まえ、次の点について自分の考えをまとめる。 ◇自分の家庭において「災害時の備え」として行わなくてはならないことを確認しよう。 ◇災害が発生した際、地域や社会の一員として何ができるかまとめよう。		○ 本時のまとめとして、災害時を踏まえ、災害時における事前の準備と災害後、社会の一員として、中学生の立場でボランティア活動に取り組む心構えについて日頃から考えておくことが大事であることに気付かせる。	【ワークシート】

4 評価

- 災害時の備えを理解できたか。
- 学校や地域の防災や災害時のボランティア活動の内容について理解を深め、進んで参加しようとする意識をもつことができたか。

5 その他

(1) 参考資料

- ・ 「福島県中学校防災教材」 福島県教育委員会HP掲載写真・VTR H26.2

ボランティア活動などの社会参加

年 組 番 名前

◇災害前、災害後の暮らしについて考えてみよう。

	災害前にすること		災害後にすること	
家 庭				
地 域				

◇自分たちが助ける側にたったとき、何ができるだろうか。



◇災害前、災害時、災害後中学生としてできるボランティアは何があるだろうか。

災害前	
災害時	
災害後	



◇災害時、社会の一員としての役割はなんだろうか。

1 ねらい

- 自然がもたらすさまざまな恵みや災害を調べ、自然の変化の特徴を理解し、自然を多面的、総合的にとらえ、自然と人間のかかわり方について考えることができる。
- 自然から受けるさまざまな恵みと地域の自然災害や地球規模の自然災害の様子を調べることを通して、過去の災害についての理解を深めることができる。
- 広く情報を収集してさまざまな視点から地域で起こりうる自然災害に対する対策を考えることができる。

2 指導計画(3時間 展開例3/3)

- (1) 活動する大地～地震・火山災害～ (1時間)
- (2) 気候の特徴と自然災害～気象災害～ (1時間)
- (3) 自然の恵みと災害の調査～防災対策～ (1時間) 本時

3 展 開

学習活動	◇主な発問	教職員の支援等 【資料】
1 福島県の自然の恵みについて考え、発表する。 ◇福島県の自然の素晴らしさや利点は何だろうか。 ・自然が豊かである。 ・山や海、湖沼が美しい。 ・温泉がある。 ・果物の生産が全国の上位である。など		<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを配付する。 ○ 自然の恵みについて、福島県ならではの素晴らしさや利点を、たくさん挙げさせる。 ○ 素晴らしい自然に恵まれている反面、自然災害も身近にあることに気付かせ、その危険について振り返らせる。 ○ 地震、津波、火山の噴火などの災害により、住居を失ったり、人命が失われたりすることについて触れる。 【本誌 P.24～P.35】
2 身近な自然災害(雷、洪水、竜巻、台風、地震、津波など)について、予想される危険を考え、発表する。 ◇自然災害が起きたら、どのような危険が予想されるだろうか。 ・落雷により、人命が失われることがある。 ・洪水により、住居や人命等が失われることがある。 ・竜巻により、巻き上げられた物でケガを負ったり、家が破損したりすることがある。 ・台風により、農作物が被害を受けたり、家屋が被害を受けたりすることがある。 ・地震により、建物が崩壊したり、ブロック塀が倒れたりする。 ・津波により、沿岸部や河川では堤防が決壊し甚大な被害が起きる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 取り上げる自然災害については、生徒の住む地域で起きやすかったり、あるいは過去に起こったことのある災害の中から選択できるようにする。 ○ 予想される危険については、前時までの既習内容から振り返ることができるようにする。 ○ 生徒の実態を把握し、扱う自然災害の種類を考慮する。 ○ ワークシートの()の中には、地域の実態により予想される災害を記入する。例 噴火、雪害など
3 2で取り上げた自然災害が起きた時の身の守り方について考え、グループごとに話し合う。 ◇自然災害が起きたら、どのように身を守ればよいのだろうか。 ・海岸や河川から遠ざかり、高台に避難する。 ・行政の避難勧告などに注意する。 ・テレビやラジオ、インターネットで最新の情報を集める。		<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートにある自然災害別のグループをつくり話し合う。 ○ 自然災害が起きた時の場所(登下校中、学校、自宅)によっても対応が異なることに気付かせ、多様な場面を想定して考えることができるようにする。 ○ グループごとに発表させ、出された意見を整理するとともに、足りない部分については教師が補足する。 ○ 自然災害が起きたときには、状況に応じて的確な判断の下に行動することが大切であることを強調する。
4 自分たちの住む地域で、普段から災害に備えて行すべき対策について考え、発表する。 ◇普段からどのような防災対策を行えばよいのだろうか。 ・行政が発行したハザードマップなどで身近な危険箇所を確認する。 ・家や学校の近くの危険箇所を知っておく。 ・自然災害が起きたときに避難する場所や連絡する方法を、家族で話し合っておく。 ・避難場所で手伝うなどの社会貢献を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ○ DVDを視聴させ、一般的な備えや先進的な取組を紹介する。その後、自分たちの地域でできることを考えさせる。 【DVD「津波に備える」(気象庁 H25.5)】や【DVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守る」(気象庁 H25.5)】など * 行政が発行したハザードマップの活用 * 地域や学校周辺の地形図の活用

4 評 価

地域にもたらされている自然の恵みや地域で起こりやすい自然災害を理解し、予想される自然災害に対する対策を考えることができたか。

5 その他

- (1) ワークシート (別紙)
- (2) 参考資料
 - ・ DVD 「津波に備える」(気象庁 H25.5)
 - ・ DVD 「急な大雨・雷・竜巻から身を守る」(気象庁 H25.5)

自然の恵みと災害

年 組 番 名前

○福島県の自然の素晴らしさや利点は何だろう。

○身近な自然災害を選び、その危険と身の守り方について考えよう。

自然災害	予想される危険	どのように身を守ればよいか
<ul style="list-style-type: none">• 雷• 洪水• 竜巻• 台風• 地震• 津波 <p>()</p>		

※被災した場所（登下校中、学校、自宅）によって、どう対処すればよいか考える。

○あなたにできる防災対策は何だろう。

◇災害発生以前は？

◇災害発生後は？